

鶴岡ロータリークラブ会報

855

1976-5-11 No.46

鶴岡ロータリークラブ 創立 昭34.6.9 承認 昭34.6.27 353地区
例会場 鶴岡市馬場町 物産館 3階ホール
例会日 毎週火曜日 午後 12.30～1.30
事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内 電 0235 (22) 5775
会長 佐藤 忠 幹事 吉野 敷

◆ 点 鐘

◆ ロータリーソング (我等の生業)

◆ ビジター・ゲスト紹介

◆ 会長報告

- ◆ 次年度理事会に於て国際委員長よりも報告あることと思いますが、ノールウェー合唱団の受入、交換学生の受入等に就いて、準備委員会を作りたいと考えます。
- ◆ 年次大会が北海道で開催されます。多数参加を希望致します。
- ◆ 新年度委員長会議を次回例会 (5月18日) 終了後開きます。

◆ 幹事報告

- ◆ 天童ロータリークラブが移転
新住所 天童市大字老野森84 天童会館内
- ◆ 郡山萬代グランドホテルに於て地区協議会が6月27日、28日の2日間開催、次年度幹事義務出席です。
- ◆ 鶴岡西ロータリークラブ10周年記念式典5月28日、多数参加を希望します。

◆ 会員スピーチ 菅原辰吉君 (後述)

◆ 東京北クラブの話 安藤定助君

◆ ヨーロッパ土産話 張紹淵君

◆ 青少年委員会から 中野清吾君

◆ 出席報告

◆ 点 鐘

TO DIGNIFY THE HUMAN BEING

人間に威信を!

米 国 研 修 旅 行 報 告

菅 原 辰 吉

一昨年来米国研修旅行で非常にお世話になりましたので御礼を申し上げ、その時みたりきいたり感じたりした事等を申し上げます。

私は外人の家に家族と一緒に暮らした事が始めてなので非常に強い印象をうけました。私の泊った家はカリフォルニア州ロングビーチの教育長の家でありました。家族はヘンズイ夫妻と大学生の息子を入れて3人家族でした。私は12畳位の一室を与えられそこにはピアノ、テレビ寝台、洗面所等があり、トイレ・バス付きでありました。家族用は別にありましたので生活は気楽なものでした。

映画に出て来るような門から車で数分かかる二階のある大邸宅という豪華なものでなく、米国では中流の平家の普通の家でした。それでも自家用車は各自1台づつ3台車庫にあり、調度品等立派で書齋等は学者らしい素晴らしいものでした。毎朝一かかえもある10数種類の新聞がとどけられ応接室で主人と一緒にみるのですが6日間居たのに一度も交通事故がのっていないのに驚かされました。

向こうでは歩くことが殆んどありません。毎朝ヘンズイ氏（向こうではヘンズイ博士と呼ぶのが慣例でした）が車で送ってくれるのですが、色々話しかけ街の説明をしたり気を使っていることがよく判りました。道路は広いし車道と歩道は全く区別され時々所々に字で（ドントウォーク）と出たり先ず事故のないようあらゆる施設、設備が完備していると思えました。日本では狭い道路の真中に一本の白い線で仕切りをしているがどこに行っても中央分離帯があり、その上そこにはドライバーの気をやわらげるために乾燥に強い夾竹桃や色んな花が植えてありました。時々パーフェクトエリアと道路の外側に余裕をもつとか、立派な道路だったと思えます。1回人身事故等起せば負傷者の賠償が高く、それを払えないものは直ぐに監獄行きだと言って居りました。こういう厳罰体制と人命尊重の精神からか運転はことの外慎重でした。例えばこんな例がありました。

運転している前方に小さな3才か4才位の男の子が勝手に道路をチョコチョコ横断し始めたのであります。そしたら彼の車は止まりそれに続いて他の車も皆とまりました。向う側にわたり切ったのをみとどけて又走り出したのです。日本人のせっかちさではこんな光景は一寸みられません。一声もどならず仕様がなとニコニコ待っている様子はむしろ私からは心嬉しく思いました。これですから向うでは殆んどクラクションの音をきかなかつたと皆んなは話し合いました。そのくせ大丈夫な所では街中は約80km/h位、郊外は120km/h位のスピードで走って居りました。

朝食は簡単で果物と卵とコーヒー位です。たまにパン位少しつづが至って少食という所でした。一々奥様が卵はやきますか、蒸しますか、硬く、柔らかくときいては調理するのです。一皿

づつ必ずブリーズといってもって来る。主人は必ずサンキューと答えて受けとる。それがソースでも塩でもコップでもさじでも一々ブリーズといつて、必ずサンキューと答えて受けとる、実にきめこまやかな感じでありました。(我々の黙って静かにものを喰うのと余りに違うと思いました。)

奥さんは作ったり運んだり、女中さん兼奥様兼母親という所で主人は定位置に坐った切り、女性上位という感じはなく聞くとみるとでは違うという事がわかりました。唯、自動車にのる時は奥様、僕の順で上性上位というより、女性を大切に保護してよくドアをしめて自分が運転席につくという感じでありました。

喰べ終つてから主人がキッチンに皿等を運ぶと、それはサンキューの声がはずんで奥様からかえつて来るのがいいものでした。デューイがよき社会人を目標として小供を教育する、家庭ではよき協力者である、という様なことが伺われました。

昼はそれこそアイスクリームとかホットドック1個とか簡単にすませます。夜は実質的な晩めしてあります。一通りありますがその割には質素な感じをうけました。ヘンズイ博士は酒も煙草もやらないクリスチャンでお祈り等して頂きました。(日本ではこういう人等は毎晩宴会等あるのですが向うでは毎晩家族と一緒に晩さんでありました。)

盆栽が好きで庭一杯ありました。僕に説明するが余り解りませんでした。調子を合わせて合づちを打っておりました。

食後は家族でテレビをみたり話し合い等しましたが大学生はほとんど毎晩アルバイトに行く様でした。

京都に行った話等してお土産の夫婦茶碗をみせてこれはどういう意味かと聞くのです。武者小路実篤氏の「仲良き事は美しき哉」と書いてありました。「グッドフレンドシップ・イズ・ビューティフル」といつてやりました。丁度貴方がた夫婦の様なものですよといったら喜んで居りました。テレビ等みてもよく政治の話等したり山形県の大臣は誰かと聞くのです。ニクソンはやがて監獄送りだと息子といい張り切るので。善悪については敵しいものでした。自国の大統領でもコテンパンにやっつける様な性格にあってはジェアファーソンが起草したアメリカの独立宣言を思い出しました。オープンデモクラシーを信ずる彼等の底知れない力強さを感じました。神に対して悪いものは悪いとする彼等の文化はやはり罪の文化であると思ひ、日本の恥の文化とは完全に違質なものをはっきりと感じました。

現在日本の学生は人を蹴おとしてもいい学校へ、いい大学へ、いい会社へといひ風潮は困つたものであります。エゴでなく社会の中の個人。良い市民となる教育の根本は学ぶべきものであります。永井文相も競争第一主義より助け合いの教育といつて居ります。良くなって貰いたいものです。

息子は勉強とアルバイトで一杯の様で晩の11時頃迄ストアで働いて来ます。学校から帰ると大声で奥さんがジョナッソン(息子の名)と呼びます。奥の自分の部屋から息子はヤツと答える。洗濯物は出しなさい、お茶のみにお出でという、その都度ヤツ、ヤツと答える、それが

仲の良い親子の会話でありました。又はアルバイトに直ぐ行かねばならないとか、友達の約束があるとか大声で返事をしている様子がいいものでした。いい息子さんだとほめると母親は相好を崩して喜ぶのでした。奥様も週3日は幼稚園の先生として働きます。働くアメリカ人のヴェイタリティにはやはり驚かされました。

白紙の国に自らの独立精神を建設して行く国民であるのをひしひしと感じます。一口でいえば開拓者精神が家庭の人々の血や肉となってる感じでありました。とに角アメリカは広い東海岸ではカリフォルニアシックがあるそうです。

映画やテレビでみる野蛮で下品なアメリカ人も居るが大半はそうではないのではないかと。私は良いアメリカ人をみせて貰った感じであります。

他クラブ例会出席と焼失バナー補充について

安藤 会員

去る4月上旬の折、帝国ホテルの東京北RC例会に出席し、焼失した同クラブのバナーをいただきて来ました。実は日本の最初のクラブ東京RCのバナーもいただきたかったが、会場は同じでも事務局が別で叶いませんでしたので、どなたか上京の折、例会は水曜日、帝国ホテルですのでは是非出席の上受領補充しSAAに御協力願いたいものと思います。

尚他クラブにメークされる方も是非同様の御努力をいただき早く焼失したバナーの補充を計り友情交換のシンボルを整備しては如何でしょう。

＝ ヨーロッパの土産話 ＝

張 紹 淵

ご無沙汰いたしました。無事帰りましたのでスマイルをさせていただきます。この度の学会はロータリーで云う処の「職業奉仕」ロータリーの奉仕活動そのものでした。観光のような気分は全くなく、実に充実した学究の旅でありました。

30日の日が学会の発表日でしたので、その準備に追われ寸暇のない有様でした。おかげ様に無事この旅行を了えてこうして皆様にお目にかかれて、こんな嬉しいことはありません。心から感謝申し上げます。

独乙に於ける学会への出席は初めてでしたが、その厳しさには誠に驚き入るばかりでした。こんな厳しい学会の経験は初めてであります。発表の途中で質問あり、斗論なぞどしどしあります。例えば、グラフなどの説明でも説明の内容、あり方が幼稚ですと問題にされず、説明の

途中であっても、聴取者は外に出て行って仕舞います。独乙人の学問、研究に対する敵しい姿勢と熱意には、教えられるものが数多くありました。幸に私の場合、質問も斗論もなく無事に終わりました。依って私のロータリー会員としての奉仕、職業奉仕も一応目的を達したと自負して居ります。

この度私の研究発表がどうして学会に取り上げられたかと申しますと、次のようなことも言えるかと思えます。例えばガンの手術の場合、外科医の立場からですと、患された部分を切除して仕舞えば治ると言う誠に単純な考え方が従来大半を支配して居た様です。胃ガンのその患された部分の切除、これは当然の処置ではありますが、切除したあとの胃を機能学的に如何に処置したら、完全な状態に復せるか。と云う一歩前進の医学的立場に意をそそぐ必要を説いた事にあつたと思えます。

胃の手術、切除と云う手法が施されるようになってから今現で100年になります。私は胃の機能学的な面を研究して以来28年になります。ご承知の通り胃の手術は日本独特の手法で開発されました塩田広重先生の前の、外科の大祖とも申せませす。華岡青洲先生その流れ、その血統を私も受けついで、頑張って参りました。今日この伝統と特徴ある研究の結果をこの度学会が着目して、採用されたことと思えます。このような学会の席に於いて、今迄研究発表された日本人に京大青柳名誉教授、中山悦明教授のお二方だけで、この度の世界的学会の大ホールでの研究発表の日本人は私が初めてであると云う事でした。それを聞きまして嬉しいやら恥しいやら、複雑な気持ちでありました。

学会終了後3日程の予定でニューヨークへ参りました。以前ロータリー会員のクラークさんに面会する目的でした。クラークさんは私が国際委員長の折来日され、鶴岡にも来られまして、私も役目の故をもって当地をご案内したことなぞあり大変懐しい気持ちで訪ねました。クラークさんは既に相当お年を召しておりまして、今はロータリーの会員ではありません。丁度日曜日でしたので、お逢い出来るかと思いましたが、フランクフルトから連絡出来まして、やっとお逢いする時間を得ました。クラークご夫婦は大変喜ばれました。クラークさんは来日当時の皆さんからの大歓迎を、心から感謝して居りました。小花先生、三井先生、会長さん始め旧友の皆さんへ呉々もよろしくと申して居りました。更めてお礼をお伝え致します。奥様は脳血圧で床に就かれて居りましたが、クラークさんは大層ご元気で居られました。

次にこのバナーはブルックザール・プレッテンのロータリークラブのものです。人口4万人程の町です。ドイツ人は日本人程ロータリーに熱心ではないように思いました。バナー交換も一苦勞がありまして、私を案内してくれました独乙人の友人平山義雄氏(帰化人)の尽力でやっと交換に成功した次第です。

以上の旅程で昨日帰国したばかりです。今は昼ですが、独乙やニューヨークは夜です。まだ体調調整いませんで、少々頭がふらつき気味です。又いずれ折をみてお話をさせて頂きます。ではこれで終わります。

鶴岡盲学校生徒を加茂水族館に案内

青少年委員長 中野清吾

毎年盲学校生徒（小学部）を加茂水族館、羽黒山にご案内いたし、学校での緊張感から解放され楽しい1日を過ごすことが出来たと生徒並に学校当局からも大変感謝されて、今年で第7回を迎えようとしております。

学校側の御希望もあり下記のコースを決定なりました。会員多数の御参加をお願いいたします。

記

1. 日 時 昭和51年5月31日（月）

1. コース 学校発(9,00)→石井梅造宅(新堀9.30)→大山園芸(10.40)→加茂水族館(11.30)(昼食)→水産種苗センター→磯遊び(15.00)→学校着(15.30)

石井梅造さんは全盲の方で色々な物を作る名人だそうで作品を展示してあります。又、水族館で昼食後阿部先生の魚のお話15分間あります。

人数 生徒 25名 付添の先生 15名 他 2名

出席報告

本日の出席	会員数 73名 出席数 57名 出席率 78.08%	欠席者	阿部(襄)君、五十嵐(三)君、上林君、斎藤(信)君、佐藤(昇)君、佐藤(忠)君、笹原君、新穂君、板垣(広)君、高橋(正)君、横山君、津田君、清水君、藪田君、内山君、中村君
前回の出席	前回出席率 71.23% 修正出席数 66名 確定出席率 90.41%	マークアップ	安藤君—東京北RC 笹原君—仙台RC 藪田君—気仙沼RC 板垣(俊)君—余目RC 角田君—酒田東RC 三井(徹)君、板垣(広)君—立川RC 張君、玉城君、嶺岸君、石川君、石倉君、高橋(良)君、山本君—鶴岡西RC
ビジター	上野十九治君、阿宗健一郎君、加藤広君、足達一見君—鶴岡西RC		